風の家レター

Wind's letter

8

特定非営利活動法人　風の家

2020年6月発行

今年はＮＰＯ法人風の家として活動し始め、12月で丸10年を迎えようとしています。

令和元年６月嘉戸篤前理事長が急逝しました。突然の逝去で職員、利用者共に非常に驚き一時的に混乱しました。前理事長とは風の家の立上げから苦楽を共にし、2010年12月にNPO法人を設立し、それ以来利用者たちを迎え、そして送り出す毎日です。事業開始当初理事長の鷹村アヤ子が私財を投入し、また支援者の寄付及び福祉医療機構の助成金が獲得できたことが事業の基礎の確立と拡大に非常に役立ちました。

その後の運営資金は、保護観察所、広島市から委託を受けた利用者の社会復帰及び就労支援等で得られる委託料で継続しています。

３階の宿泊施設

施設内部を現在の様に、宿泊施設及び調理場、食堂、事務室、作業場等に改修出来たのは、丸紅基金、年賀寄附、木口財団、大和証券、中国ろうきん等の助成金によるものです。このほか、宿直員の謝金の３割は日工組社会安全研究財団より2013年から今年度を含め８回助成して頂いています。エアコンの更新、調理台の更新、食堂のコンセントの増設等こまごました改修でも、まとまったお金が必要な工事には、その都度財団からの助成金を申請して工事を行っています。

今の課題は、宿泊施設が相部屋主体なので、助成金を獲得し個室化することで住環境を改善し、新型コロナウイルスの感染の機会を減らしたいと考えています。

職員一同、風の家を増々充実すべく頑張っています。風の家の活動に対するご支援宜しくお願い致します。（理事長　大原嘉樹）

みなさん、はじめまして！　風の家職員の温井です。風の家の手伝いを始めて６月で９ヶ月目になりました。当初は、風の家利用者の特異性に圧倒され戸惑うことが多かったのですが、最近では利用寮者個々人の個性として相手を冷静に観察することができるようになったのではないかと思います。（この点は成長したところかな？）今までを振り返ってみれば、風の家に利用する人が、統合失調症・自閉症・薬物依存症等の精神的障害や、脳卒中・事故等が原因での身体的な疾患・麻痺等の障害が残っている人が多く見受けられ、そのことが原因で社会に順応できず、社会に反抗的となり罪を犯している実態が入寮者と話をする中で浮かびあがってきました。そのため、最近では利用者と対等に向き合い、相手の本音をできるだけ聞くことに注力しています。そのうえで、その人の持つ個性・特殊事情に配慮しつつ、その人に合った生活・就労等の手助けが行なえるよう努力しています。一方、今ではこのことが利用者の社会復帰の一助になればと願ってやみません。まだまだ、小生が未熟なため入寮者に対して十分なフォローが出来ていないと思っていますが、少しでも利用者の更生・社会復帰に役立てるように自分自身

近所の公園で

も自己研鑽に努めていきたいと思いますので今後ともご支援、ご鞭撻をいただけますようよろしくお願いいたします。　　（施設長　温井直樹）

４月より指導員兼心理士として働くこととなった服部と申します。私は大学院で心理を学んでいました。院生の頃、アルバイトとして当施設の宿直員を始め、そこから風の家との繋がりを持つこととなりました。大学院の先輩から宿直の話を聞いたとき、犯罪心理を学べるチャンス！という気持ちの反面、大丈夫かな・・？という不安を抱えながら宿直を引き受けました。いざ働き始めて初日、宿直員も利用者と同じ食堂で夕食をとるのですが、利用者同士で明るく語らいながら食事を囲んでいるなか、私もそこに同席することになりました。利用者とともにテレビの話や仕事で疲れた話など、穏やかな雰囲気のなか食べる食事はとても温かくて「なんか、家族みたいで良いなあ」と感じたことを今でも覚えています。こうして今も施設に関わらせていただいているのは、そんな人の温かさから生まれた場所を、私も支えるお手伝いがしたいと思ったからです。利用者の声に耳を傾けると、その多くの人たちが、欲しい時に必要な人からの温かみを受けることが出来ず、これまでの人生で何度も傷ついてきた経験があるようでした。追い詰められた末に罪を犯し、「犯罪者」の烙印を背負って生きている。そんな人たちに、ひとりの人としての対話と、互いの心の温かさをともに分かち合う。そうした取り組みが当事者の社会復帰だけでなく、犯罪数の減少、再犯防止に繋がるの

花見会

であれば、活動の意義も大きいと考えています。…恰好の良い言葉を並べましたが、まだまだ心理士としても、社会人としても未熟な私です。ここでたくさんの挫折と経験を繰り返し、風の家とともに成長していきたいと思いますので、今後ともよろしくお願いいたします　　（指導員　服部さつき）

本年より指導員として勤めております藤本敏彰です。作業所では 6 月から灯篭作りが始まりました。この時期恒例の内職なのですが、コロナ騒ぎで部材の中国産の竹がなかなか来ず、今年はできなさそうだと皆で話していたところ、にわかに賑やかになってきました。

作業所には、風の家から居宅生活に移った OB の方々が多く来られます。私は野宿者支援のボランティアがきっかけで風の家を知ったのですが、野宿から居宅生活に移った後に孤立してしまう方も多く、この作業所のような場の貴重さを痛感しますし、関われることをうれしく思います。

灯篭作り

OB の何人かともボランティア仲間として知り合い、昨年から少しずつ風の家に関わらせていただくようになりました。灯篭作りも皆さんから教わっています。

（指導員　藤本敏彰）

今年度頂いた皆様からのご寄付、ありがとうございます（順不同）

米田和子様、高木佐和子様、オダサクラ様、後藤三歌様、広瀬祥子様、吉宗政勲様
赤山幸一様、河島美江子様、天地真隆様、仁井恭子様、大石禮子、和崎作二様

特定非営利活動法人 風の家　　〒730-0843 広島市中区舟入本町 17-8
☎ 082-232-6696　FAX 082-942-0677　buratto-hiroshima@wine.ocn.ne.jp